

看護しずおか[🌿]

令和元年度 定時総会 P2

第2回「看護職の心に残る看取りエピソード」集
最優秀賞・優秀賞授賞式 P3

平成30年度 看看連携を基盤とした
地域包括ケア推進支援モデル事業報告 P6・7

日本にたった1300人!? 男性保健師 P8

シリーズ 人の一生を支える看護職 P9

令和元年度

Vol.2



会員数 20,476名 (令和元年 7月1日 現在)

●保健師…508名 ●看護師…18,455名
●助産師…777名 ●准看護師…736名

看取りエピソード集の朗読を終えて



公益社団法人 静岡県看護協会

静岡県看護協会

検索

<http://www.shizuoka-na.jp>

[静岡県看護協会]
お気軽にご利用下さい。



令和元年度 公益社団法人静岡県看護協会 定時総会



令和元年6月28日(金)公益社団法人静岡県看護協会定時総会が、静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ大地において、出席者411名、委任状15,261名のもと開催されました。開会式では、渡邊会長が「人口構造や社会情勢等の様々な変化の中、人々の元気を作るライフサポーターとして、これまで以上に看護職が持てる力を最大限に発揮し、いきいきと活躍できる環境を整え支援できる県看護協会でありたい。そのためには、将来を見据えた人材確保と育成、健康寿命の延伸に関わる予防と健康増進等に目を向け、会員の皆様と共に力を合わせ、看護の将来ビジョンの醸成のための活動が必要となり、県民や会員の声を大切に風通しの良い組織作りに尽力していきたい。今年度は1.地域包括ケアにおける看護提供体制の推進、2.少

子・超高齢・多死社会に対応できる看護職の育成、3.看護基礎教育制度の推進、4.健康で働き続けられる職場環境改善の推進、5.地域における看護職の活動推進を重点に取り組んでいきます」とあいさつしました。

来賓の静岡県理事の鶴田氏から「静岡県でも地域医療構想や地域包括ケアシステムを推進しています。病院や介護施設、訪問看護ステーションの間で顔の見える関係づくりやお互いの役割機能を知った上での連携が重要です。静岡県看護協会とも連携し取り組んでいくのでご協力をよろしくお願いします。サミエル・ウルマンの青春の詩を引用し、求めてやまぬ探究心、夢と希望を持って看護業務に当たることを希望します」と応援メッセージを頂きました。

また、静岡県医師会の紀平会長、静岡県病院協会の磯部副会長から祝辞を頂きました。

静岡県看護協会会長表彰が14名、各賞の受賞者が紹介されました。

議事は、静岡県看護協会名誉会員の推薦、平成30年度事業報告、決算書(案)の承認と監査報告、令和元年度の収支予算と事業計画の報告が行われました。



鶴田理事



紀平会長



磯部副会長



静岡県看護協会会長表彰



議長



新役員挨拶



第2回「看護職の心に残る看取りエピソード」集 最優秀賞・優秀賞授賞式

昨年度より会員から「心に残った看取りの体験」を募り「看護職の心に残る看取りエピソード」集を発行しました。今年度は19作品を入賞とし、最優秀賞1名と優秀賞4名が受賞されました。昨年度に引き続きヴォイスセラピー実践研究家の上藤美紀代さんが受賞作品を朗読しました。

最優秀賞

「産ぶ声をあげない赤ちゃん
～天国に旅立つ赤ちゃん和家人の看取りの時間～」 勝山 あゆみ さん

優秀賞

「おいしい魚がたべたいなー」 長野 清美 さん
「もう一度縁側から畑を見たいんだよ。」 松栄 望美 さん
「その思いに寄り添いたい」 柳川 真穂 さん
「198枚の手紙」 柳原 和美 さん



勝山さん



長野さん



柳川さん

受賞者の感想

亡くなっているとは思えないほどきれいな赤ちゃんだった。グリーフケアで家族と関わることに自信がなかったが、まとめることで少し自信が持てた。(勝山さん)

患者の話す言葉を鮮明に思い出した。医師、リハビリ、ワーカーなどのスタッフの協力があって外出ができた。患者をどう支えるかチーム医療の素晴らしさを実感した。(長野さん)

一緒に家に帰ることができたが、周りのスタッフの支援があつてのこと。家では一度も苦しいと訴えることなく、笑顔の写真が撮れた。これからも患者に寄り添った看護をしたい。(松栄さん)

Aちゃんとの思い出が正解なのか悩みながら看護していた。看護師は、チームとしても患者や家族に関わり、とてもステキな仕事だと思う。(柳川さん)

いのちを守り看護していく中で、家族も不安を抱えている。知識だけでなく、繊細な対応をしていきたい。手紙は心の支えにしていきたい。(柳原さん)



上藤美紀代さんによる
受賞作品を朗読



松栄さん



柳原さん

これからよろしくお願いします!

令和元年度の役員を紹介します。



会長
渡邊 昌子



副会長
平井 弘美



副会長
間淵 元子



専務理事
柏崎 順子



常務理事
櫻井 郁子



常務理事
松井 順子



保健師職能理事
土屋 厚子



助産師職能理事
西郷 美智子



看護師職能理事
松本 志保子



看護師職能理事
戸田 美也子



賀茂地区理事
小川 秋美



熱海・
伊東地区理事
鈴木 和美



東部地区理事
石井 広美



富士地区理事
磯崎 まさ代



静岡地区理事
牛之濱 千穂子



志太・
榛原地区理事
齊藤 博子



中東遠地区理事
津島 準子



西部地区理事
岩品 希和子



准看護師理事
松下 直美



学識経験者理事
菅沼 明人



学識経験者理事
松浦 康夫



学識経験者理事
中村 光央



監事
山元 道子



監事
遠藤 さよ子



学識経験者監事
櫻田 和秀

令和元年度第1回定時理事会報告

■ 開催日時 令和元年5月21日(火) 14:00～16:00

■ 会 場 静岡県看護協会 第1会議室

出席理事20名、欠席理事1名 定款38条に基づき、定足数12名を満たしていることを確認。
出席監事2名、欠席監事1名

1.協議事項(すべての事項について承認される)

(1)平成30年度事業報告(案)について (2)令和元年度定時総会議案について (3)令和元年度定時総会静岡県看護協会会長表彰について

2.報告事項

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| (1)令和元年度静岡県委託事業の受託について | (4)会員入会の申請状況について |
| (2)令和元年度特別委員会について | (5)令和元年度行事計画について |
| (3)令和元年度行政機関・関係団体の役員・委員の就任について | (6)静岡県看護協会活動参加者への傷害保険について |

令和元年度 日本看護協会通常総会報告

代議員 佐野 文子

令和元年度 日本看護協会通常総会が6月6日(木)に、全国職能交流集会が6月7日(金)に、北海道の函館アリーナにて開催されました。

全国各地から多数の参加者が集まり、総会出席者数は代議員749人を含む2481人となりました。

冒頭、日本看護協会の福井トシ子会長から、Nursing Nowキャンペーンの趣旨が説明され「看護の力で健康な社会を!」をメインテーマに、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、社会に求められる役割を果たせるよう、看護職が一丸となって取組みを進めていきたい。」と、これからの看護職のあり方に対する熱いご挨拶がありました。

また、4月から施行された働き方改革関連法についても触れ、全看護職に深く関わる内容であり、今後の動向を注視しつつ健康で働き続けられる勤務環境づくりを呼び掛けました。

日本看護協会会長表彰は全国では141名、静岡県からは5名の方が受賞されました。

表彰に続き、第1号議案の名誉会員の推薦、第2号議案の改選役員及び推薦委員の選出が審議され、議決事項はいずれも承認されました。

報告事項は、執行部より2018年度の事業報告や決算報告後、2019年度の重点政策4項目「看護基礎教育制度改革の推進」「地域包括ケアにおける看護提供体制の構築」「看護職の働き方改革の推進」「看護職の役割拡大の推進と人材育成」の詳細な説明がありました。その後、質疑応答が活発に交わされ、課題や方向性を共有しました。

社会保障制度が目まぐるしく変革する中、4つの重点施策を踏襲しながら地域包括ケアの推進に向け看護はどうあるべきか、また、各地域においてその特性を踏まえた新たな看護の創造が重要であると改めて考えさせられた総会でした。

春の叙勲受章おめでとうございます

瑞宝単光章

元浜松医科大学附属病院
副看護部長

河合 みどり氏



瑞宝単光章

元こころの医療センター
看護部長

小林 貴子氏



瑞宝単光章

元静岡赤十字病院
副院長兼看護部長

武田 恵子氏



平成30年度 看看連携を基盤とした地域包括ケア推進支援モデル事業報告

看看連携は、病院、施設、訪問看護ステーション、行政等の看護職が連携することで入院から退院後の在宅での看取りまで、切れ目のないケアを行う地域包括ケアの提供を目指すことです。平成29年度からモデル事業に取り組み、2年目は6地区で実施したのでその活動を報告します。

南豆のケアをつなぐ会Good Care

下田メディカルセンター 大村啓子

私たちの活動目標は地域の「ケア」について、サービス提供者がそれぞれの立場から意見を出し合い、問題解決を図りよいケアが提供できるネットワークを作ることです。平成30年度の主な活動は、代表者会議、施設見学会、講演会、朗読会でした。

朗読会はその中でも特に手ごたえがありました。

5月のキックオフミーティングで認知症になった家族の寸劇をやることが提案され、袋井市の地域包括ケア推進課の方から劇のシナリオを送ってもらいました。代表メンバーの知りあいの看護師に、送られたシナリオを地域向けのものに編集してもらい、朗読会の形でまとめました。

朗読自体は15分ですが、その後会場からの質問をもとに意見交換ができ、下田市の事業案内も交え「認知症を個人で

抱えず周囲に相談し、地域のサービスを活用して行こう」と、参加者とともに話し合えたことは成果でした。

この事業はローカルテレビで放映されました。今後も高齢化率の高い南豆の地域ケアのために取り組んでいきます。



花と海といで湯の街～看・看ネット～

伊東市民病院 鈴木 和美

伊東市は人口6万9千人、高齢化率は40.2%と全国平均を上回る超高齢地域です。今後さらに進行し、高齢者のみの世帯や独居老人の増加も予測されています。

そのような中、花と海といで湯の街～看・看ネット～（以下、当ネットワーク）は、平成30年5月に、行政、急性期病院、療養型病院、訪問看護ステーション、介護老人保健施設に勤務する看護管理者7人で立ち上げ、住民が安心して在宅で最後まで暮らせる地域づくりを推進するために、切れ目のない看護・介護の提供体制を構築することを目的に活動を開始しました。

地域の看護職間の顔の見える関係づくりとして「看・看連携研修会・症例発表会」を開催しました。テーマは「患者・家族の思いを叶えるために私たちができること～人生の最終段

階における医療・ケアの決定プロセスへの支援を専門職として考える～」とし、山下由香氏（千葉大学大学院）に、高齢者のエンドオブライフにおける身体的・心理的・スピリチュアルな特性、意思決定支援について基調講演をお願いしました。その後、3症例の報告と当ネットワークで意思決定支援ツールとして作成した「エンディングノート」を配布しました。研修後のアンケートでは「看看連携は力を合せばできる」「症例検討会を続けてほしい」など、看看連携への関心の高さと期待が伺われました。

今後も、定例会議や症例検討会、研修会等を企画し、地域の看護職ネットワークづくりと、地域包括ケアシステム構築が推進するよう取り組んでいきます。

しまだ看護つなぎ隊

市立島田市民病院 大石 初巳

「島田で医療に携わる看護職が集まりお互いの仕事を理解しあい、話し合いの中から、推進できる事業をみつけ、実践していく」というコンセプトのもと、4回の医療研修会（①転ばない足をつくる看護技術②健康に看護師を続けていける体操③糖尿病の治療と在宅での生活管理上の注意点④腹膜透析実演研修）と市内の施設看護見学実習、認定看護師の施設依頼訪問の6事業を行いました。

同じ地域内の領域の異なる看護職（行政、病院、施設、地域包括ケアセンター等）が集まり「島田の看護職が集まって、こんなことできたいいなあ」という事を話し合い、活動内容を決定していきました。要望の多かった「施設看護見学実習」には24事業所から80名が参加し、各施設で実際に行わ

れている看護を見学することで、地域の看護師の繋がりを大きく前進させる一助となりました。参加した看護職から一様に「自施設より出て、学ぶことが多かった」という感想が聞かれました。地域の看護職は孤軍奮闘状態でしたが、今年度、この会の繋がりにより地域の小さなヘルプの声に応えることができました。現在、ヘルプの声に応えるネットワークができつつあります。

コアメンバーの勤務異動等による事業継続が課題です。今後、継続できるような組織となるように、新規コアメンバーの加入や継続可能な組織のしくみ作りを検討していきたいと思います。

お茶の香みらいく

榛原総合病院 大井 陽江

牧之原市吉田町圏域21施設の看護師32名により、地域住民に「ときどき入院ほぼ在宅」で安心して生活してもらうため、看護師同士が顔の見える連携、一緒に学びあえる環境づくりをしていくことを目標とし、2018年度は認知症・感染症・褥瘡等についての研修会を開催しました。

研修会は①地域における現状と課題②認知症患者の看護③最新の褥瘡治療④多職種による認知症ケア⑤感染予防⑥事例発表会に述べ492名が参加し、多くを学ぶことができました。

成果は、研修会開催を連絡しやすくなり看護師・市町の職員・ヘルパー・理学療法士・ケアマネジャー等の多職種が参加できました。3施設で研修会を行ったため病院や施設の機能を知ることができました。とくに、2018年度は11月の感染予防研修会の成果により施設のインフルエンザの蔓延はありませんでした。

今年度からは、行政の支援を受け地域活動していくと共に、多職種連携も視野に入れ地域を支えていきたいと考えています。また、看護師が参加しやすい研修会の企画運営をし、看護ケアが統一できれば地域住民に還元されます。今後は「顔の見える関係」から「腹の底が見える関係」になり「在宅ときどき入院」の実現を目指します。



かけふく看看ネットワーク

中東遠総合医療センター 八木 純

掛川市・袋井市は人口20万人です。病院から在宅へスムーズに移行するためにはどうしたらよいかという視点で、総合病院と回復期・療養病棟を持つ病院、精神病院、訪問看護ステーションの代表者と行政の17名で構成しています。

「施設間の人事交流と連携」をテーマに施設間連携強化に取り組みました。人事交流研修では、救急外来や地域連携室の実習を通じて急性期病院の実際を知り、退院支援の現状を理解したことで、介入に生かしたいという感想が聞かれました。

「病院・地域との連携」で話し合い、急性期病院を退院した後、地域で提供するサービスを考え、効果的に連携を取るためには、早期に介入依頼すること、情報共有を充実する等

の意見が出されました。意思決定支援の話し合いでは「患者様やご家族が受容されないまま在宅へ移行するケースがある」ことへの問題提起がされ、これは急性期病院だけではなく、地域全体で取り組むテーマではないかという結論に至りました。

連携をテーマに講演会も開催し、総合病院から在宅診療に移行したケースの主治医や関わった医療者に加え、患者さんのご家族も参加しました。実際のケース紹介の後、ディスカッションしたことで、受講者が自分の立場での役割を認識する機会になったという声が聞かれました。

今年度は「さらなる連携強化」「意思決定支援力の向上」という目標に向けて取り組んでいきたいと考えております。

浜松市北区意思決定支援プロジェクト

訪問看護ステーション細江 尾田 優美子

浜松市北区は高齢化率が高く、老老介護・子が通い介護をする高齢者独居世帯が増えています。緊急時の救急搬送や望む医療について、日頃から意思決定支援（以下、ACP）が必要な地域です。しかし、ACPの概念は医療関係者の間で急速に広まっているのに対し、要介護者本人や家族、介護・福祉従事者にはまだまだ縁遠いものだと感じていました。

このため、まずは医療・介護・福祉従事者がACPIに関して共通理解の機会を持つことが必要だと考えました。また、療養者本人が「自分の大切にしていること」「人生の最終段階において自分が望むこと」を家族や、医療・介護・福祉従事者に伝えるきっかけになるツールが必要だと感じ、ACP普及ツール「なおとらシート」を作成しました。また、4訪問看護ステーションでACPミニ講義・なおとらシート説明会後、シートの活用をスタートしました。地域初のアクションを起こし、関係者の興味を喚起し、活動を開始したという点がまずは大きな成果です。

今後は、浜松市北区の医療・介護・福祉従事者がACPIに関しての共通理解を更に深め、地域の療養者、今健康に生活されている地域住民が「自分が大切にしていること」を実感し、人生の最終段階において「私はこんな医療を望み、こんな風に過ごしたい」と当たり前に言える、それをしっかり受け止めケアに反映できる地域文化の醸成を目指します。



日本にたった1300人!? 男性保健師

2002年4月、当時18歳青春まっただ中の私は、「保健師」という職業を知りませんでした。そんな私が『保健師って面白そうだしやってみたい!!』と思ったのは、大学時代「地域保健の先生達が面白かった」「大学4年の地域実習(森町)がとっても楽しかった」という理由と、看護師として聖隷三方原病院の救命救急センターで働き「1次予防の重要さを実感した」「いつ死ぬかわからないから、やってみたいことは、いつかやろうではなく今やろうと思った」という理由からです。

奇しくも私が保健師を受験した時は、特定健診・保健指導が国の施策として始まり、どの市町も保健師採用が多い年でした。私は、磐田市で保健師として働くことが決まり、期待を胸に地域に飛び出すつもり満々でしたが、保健師になって初めての配属先は磐田市立総合病院健診センターでした。その後、市の健康増進課に異動し、がん検診や地域医療連携、赤ちゃん相談等の仕事を通して、保健師の楽しさを学ばせていただくとともに、多くの地域の方と出会い、関わり、保健師としてのやりがいを感じていきました。

また、仕事とは別に、20代半ばから始めた「いわたゆきまつり」のボランティアスタッフの仲間と一緒に「若者いわたネットワーク(WIN)」を立ち上げ、地域おこしの活動をすると共に、同世代のつながりづくりをしてきました。

保健師とWINの活動を通して、「人と人が出会い、つながり、大きな力になっていく」ことを実感した私は、2013年沖縄で始めて開催された「全国男性保健師の集い」に静岡県から唯一参加しました。その会で、男性保健師にはモデルケースの存在が近くにいないことで

離職する人、つながりが少なく相談相手がいないで困っている人が多くいることに気づきました。

そこで沖縄から帰って早速県内の市町村に連絡を取り、静岡県男性保健師の集いを開催しました。県内男性保健師が繋がり仲間が増えた2018年、男性保健師誕生25

周年を祝う「全国男性保健師の集い」を、磐田市竜洋海洋公園オートキャンプ場で開催しました。北は秋田、南は沖縄から70人を超える男性保健師が集い、テント設営や災害時を想定した避難所ゴミの再利用ワークショップで交流し、焚き火を囲みながら絆を深めました。竜洋昆虫自然観察公園職員のこんちゅうクンに協力してもらい、トノサマバッタやエンマコオロギ、だんごむしの昆虫食も振舞いました。トノサマバッタは参加者で捕まえ、調理し、食べましたが、参加者の大半が初めての経験だったのでとても盛り上がりました。翌朝は元バリスタの保健師が淹れたコーヒーや静岡茶を楽しみながら、我が家の臼と杵を使ってみんなで餅つき大会をし、2年後の再会とそれぞれのフィールドで活躍することを誓いました。

2017年、私にとってとても心強い後輩男性保健師が2人採用されました。今は磐田の男性保健師3人、県内の男性保健師、全国の男性保健師と連絡をとりあい、刺激をし合いながら日々を過ごしています。



磐田市役所 自治市民部
地域づくり応援課

伊藤 貴規



シリーズ 人の一生を支える看護職

今回から新しいシリーズが始まります。

看護職の仕事は傷病者や妊産婦の療養上の世話をしたり、診療の補助を行うことですが、病院や診療所だけでなく、訪問看護ステーションや福祉関連施設、企業、行政など活躍の場は広がり、看護職に対する期待も大きくなっています。そこで、県内の様々な場所で働く看護職を紹介します。



訪問看護ステーションしずおか
星 ともこ

大切にしたい手のケア

私自身、在宅看護をしたいと思い病院から出向く訪問看護を経験した後に、子育てとの両立を考え訪問看護ステーションの非常勤職員として再就職しました。初めて先輩看護師に同行し脳梗塞後遺症の方の手浴をさせていただきました。温かいお湯の中で、拘縮した指を一本一本マッサージしながら洗っていくと、その方が心地よさそうな表情をしてくれました。私自身もケアできる喜びを感じ「こんなケアをしていきたい」と思った事を今でも忘れません。

また、手を通して、利用者さんの人生を垣間見ることができます。母の柔らかな優しさを感じる手、指の節々が太くしっかりとされた手からは現役時代に力仕事で活躍した姿が浮かびます。私が利用者さんの手のケアも大切にしたいと思うのは、在宅療養中にお見舞いに来られた方が手を

握って励まされる時に、その手がきれいであってほしい、手を通して生きる力をもらって欲しいと思うからでもあります。

人生最終段階の利用者さんには、父の手を、母の手を子供さんに洗って頂くようにセッティングをして一緒にケアをします。涙を落しながら感謝の思いを伝えお別れの準備をされます。在宅看護の中では家族の手によって介護されていく事が、ご家族にとってもご本人にとっても満足度の高いものになることを感じます。ご自宅で最期を迎える方が増えました。ご家族や介護者の手によって痛みの緩和ができ、不安の軽減も出来ます。これからもご家族や介護者の中でその方らしく人生を生き抜くことを支える訪問看護師として歩んでいきたいと思います。



訪問看護ステーションとうか
戸田 美也子

生きる希望を支える

介護保険スタートと同時に専業主婦から看護職として復職しました。

介護支援専門員の資格を得てから20年近く経とうとしています。当初介護支援専門員は看護職の資格を有する人が多くいましたが、今ではそれを生業にしている看護職はほとんどいなくなりました。その中で看取りの事例を多数経験させて頂く機会を持ち、人生の最期に関わることで自分の死生観も随分と変わっていききました。自宅で最期まで過ごしたいという本人のニーズ、自宅で看取りたい家族のニーズがありながら諸事情により病院で最期を迎えた方に接し、本人家族の思いを大切にしたい関わりを一層深めたいとの思いから現在の「看護小規模多機能」と「訪問看護ステーション」を立ち

上げることが出来ました。

癌末期の事例では看護職だけでは支えきれず、医師・介護職などの多職種とスピーディーに連動していくことの困難さも日々痛感しています。そして本人家族の人生最期に向かうまでに激しく揺れる思いを受け止めながら、出来る限り不安を取り除くため、一例一例を丁寧に対応することを心がけています。

看護技術もさることながら精神的ケアは特に重要です。縁あって人生最期に関われる事を重く受け止め、生きる事への希望を支えつつ、その人らしいラストにむけて伴走していける看護を熱い思いのスタッフと共に目指しています。



特別養護老人ホームぬまづホーム
渡邊 浩美

食べることは生きること

介護保険が始まるかなり前、看護師ブランク中に訪問入浴のアルバイトをしたことがありました。訪問した方々は高齢者ばかりではありませんでしたが、かつては入院で管理していた気管切開で人工呼吸器装着、IVH、胃瘻や経管栄養、終末期でバイタルサインが不安定な方々が在宅生活をしていることに驚きました。行く先々で大変喜ばれたのですが、24時間を通して在宅生活に関わりたくなかったことが介護老人福祉

疾病の重症化を防ぎ、人生の最終段階を穏やかに過ごせ大往生であったといえるような最期に関われるよう看護師たちは奮闘しています。

一番の思い出は、50代で若年性アルツハイマーを発症、胃瘻造設されコミュニケーションも困難な60代前半の女性が入所してきました。同じテーブルに着いていた隣の方の食べ終わったヨーグルトの容器を見て、ごくりと唾液を飲み込み容器に手を伸ばすという行為を介護職が気づきます。「口から食べたいのでは？」からチームで検討を重ね、最終的には経口摂取を取り戻し胃瘻抜去。その年の誕生会は、職員達とイタリアレストランでパーティーを開き「ありがとう、うれしかった」と言ってもらえたこと。亡くなるまでの8年間、最期まで経口摂取が続けられた事が心に残っています。

令和元年ファーストレベルは新カリキュラムで、問題解決能力をアップ!

教育研修部ファーストレベル担当 鈴木 美恵子

令和元年の静岡県看護協会ファーストレベルは84名が受講しました。2019年カリキュラム改定により、受講要件は「管理的業務に関心がある者」から「管理業務に関心がある者」となり、研修時間も150時間から105時間に減少し、より多くの人が受講できるようになりました。当協会は基本のカリキュラムに、特別講義として12時間を追加して117時間の研修時間としています。

内容は従来の7科目からヘルスケアシステム論I、組織管理論I、人材管理I、資源管理I、質管理Iの5科目に集約され、「統合演習I」が新たに加わり、組織の諸問題を客観的に分析できる力の育成を目指しています。様々な事象から問題を分析し解決する課題を明確にする方法を丁寧に学習し

ています。日頃の解決策ありきの思考や、限られた視点で分析しがちな傾向に気づき、グループワークで思考錯誤しながら学びを深めました。22日間の研修で課題レポートに取り組み、ワークを通じて、深い考察とネットワークも広げる充実した研修となりました。



病院・施設・在宅 どうつなく認知症ケア

教育委員 増田 良江

認知症は65歳以上の7人に1人から、2025年には5人に1人の割合で発症が増加と言われています。認知症看護の必要性が求められ、各施設において様々な取り組み、体制整備を施行しています。私たち看護職は、疾患へのケアを提供するだけでなく、病院・施設・在宅と生活の場は変化しても、一人の人として生活する高齢者を支援する必要性があります。今回、認知症看護認定看護師 鈴木智子氏と福島秀美氏、訪問看護認定看護師 和田都子氏3名の講師から、認知症看護の基本的知識・技術を学ぶと共に、多職種との連携のあり方を学びました。

93名の研修生は、台風で交通機関に影響を受けながらも全員参加し熱心に受講していました。認知症看護及び連携について具体的な事例を通し、ガイドラインの活用法や認知症ケアの演習等実践の場に活かせる内容でした。認知

症状、BPSDに惑わされるのではなく、一人の人として関わり、理解する姿勢に立ち戻ること、倫理的課題についても振り返る機会となりました。この学びが、それぞれ臨床の場で活かしていくと期待できる研修でした。



柔軟で創造力のある豊かな看護職員を目指して

浜松市立看護専門学校 石井 幸子

令和元年6月3日に静岡県専任教員講習会が開講となり、今私は看護教員に必要な学習理論の基礎、看護の基盤となる看護論を学び、新しい知見を得て教育者としての責任の重さを痛感しています。看護専門学校に勤務した事が看護教育に携わるきっかけとなりました。そこで、一心に看護教育に取り組む教師を目の当たりにし、教育はただ知識・技術を教えるのではなく看護師になるために豊かな心を持った「人」を育てることだと気づきました。長い臨床経験や知識・技術があってもそれを言語化し伝える力や創造性に富んだ豊かな感性、授業を展開する実践能力がないと看護教育はできない事が分かり、教育について深く学びたいと思い専任養成講習会を受講しました。来年2月までと

長期間の研修となりますが、26名の仲間と支えあい学びを深め柔軟で創造力のある豊かな人間性と実践力を身につけたいと考えています。



●今年度も開催!「看護職のキャリアと働き方支援による地域に必要な看護職確保事業」

昨年度、日本看護協会「看護職のキャリアと働き方支援による地域に必要な看護職確保モデル事業」として富士・富士宮地区で地域に必要な看護職の安定確保・定着の実現を図る事を目的に就業相談会と勤務環境改善のための研修を実施しました。今年度は、別の地区で行政、医師会、社会福祉協議会等の方々のご協力をいただき、同様の事業を展開します。また、「ナースのお仕事フェア(就業相談会)」は県内9カ所での開催を計画しています。詳細は、9月末発行の『ナースセンターだより プラス』とホームページでお知らせします。

お知らせ

※相談・研修は看護職であればどなたでも受けられます。

(1) 移動(就業)相談inハローワーク(開催時間:9:30~12:00 予約不要)

県下14のハローワークに看護職の就業相談員が外向き、就業についてご支援します。

お近くのハローワークにお出かけください。

下記の日程で実施、ハローワーク浜北以外ではナースセンターと求人施設による就業セミナーを実施しています(9:30開始)

	富士	沼津	三島	御殿場	下田	清水	静岡	焼津	島田	掛川	浜松	磐田	浜北	細江
8月	14日	20日	27日	—	—	20日	14日	27日	—	5日	14日	—	16日	—
9月	11日	17日	—	24日	24日	—	11日	—	24日	—	11日	17日	—	17日

(2) 研修予定(9月~11月)

名称	実施施設	実施期日
再就業準備講習会	静岡県看護協会会館	9月11日(水)・12日(木)・13日(金)
	磐田市立総合病院	10月 1日(火)・2日(水)・3日(木)
	沼津市立病院	11月20日(水)・21日(木)・22日(金)
介護施設等再就業研修	聖隷研修センター	11月18日(月)・19日(火)・20日(水)

定員:各回20人 費用:無料 保育費:一部支援あります。

介護施設等再就業研修の内容は高齢者・認知症看護に関する知識、演習、介護施設見学などです。

(3) 求人施設見学時に就業相談員による同行訪問を実施しています。

一人で行くのは不安な方、お気軽にご相談ください。



離職率と悩み相談について

看護職員離職は、過去5年間横ばい傾向が続いています。静岡県の新人看護職員離職率は前年3.8%から、2.7%の増加がみられました。

「つらい、疲れた、行きたくない…」と思ったときは早めに誰かに相談しましょう。

平成30年度	正規雇用看護職員	新人看護職員
全国平均	10.9%	7.5%
静岡県	10.0%	6.5%

先輩看護師の皆さん、新人看護職員に声をかけ、思いを話す時間を作るようお願いします。

○新人のためのリフレッシュ研修を計画中です(詳細はホームページでお知らせします)。

*** 悩みは誰かに話しましょう ***

悩みを抱えていませんか?

悩みは一人で抱え込まずに、誰かに話しましょう。ナースセンターには相談窓口があります。話した内容が他の人や職場に伝わることはありません。お気軽にご利用ください。

悩み専用ダイヤル

054-202-1780 月~金曜日 9:00~16:00

新人専用ダイヤル

090-2183-8734 はなしてみよう 月~金曜日 9:00~16:00

(公社) 静岡県看護協会 静岡県ナースセンター

(相談時間 9:00~16:00 本所のみ火~木は18:00まで)

本 所: TEL 054-202-1761 FAX 054-202-1762

東部支所: TEL/FAX 055-920-2088

西部支所: TEL 053-454-4335 FAX 053-401-3510

下田相談所(毎週木曜日): TEL 080-2650-0327

天竜相談所(毎週火曜日): TEL 080-2650-0237

看護協会
総務部

ご存知ですか？ 福利厚生事業

慶弔見舞金規程に応じて、本
会会員に慶弔見舞金を贈ること
としています。
受章等祝金、罹災見舞金、傷
害見舞金、死亡弔慰金があり
ます。
災害、弔事に該当する場合は、
すみやかに総務部
054-202-1750へ
お知らせください。

活用していますか？ 会員専用ページ「キャリアース」

キャリアースがリリースされ、3年になります。ご自身の会員情報確認や変更、電子会員証表示、文献検
索、昨年から研修受講履歴提供がスタート。皆さまの看護業務に役立つコンテンツもあるかもしれま
せん。まだ見たことない方もぜひ!!アクセスし登録してください。

1. アクセス方法



QRコードまたは静岡県看護
協会ホームページ(トップ
ページ)バナー
からアクセス



2. ユーザー登録

静岡県会員No/JNA
会員No/登録職種/登
録職種の免許番号/
生年月日/メールアド
レスを入力。登録した
メールアドレスに登録
完了URLを記載した
メールが届きます。
24時間以内にクリッ
クして完了です。

3. ログイン

ユーザ登録完了後、登録した
メールアドレスとパスワ
ードを入力しログインするとトッ
プページが
表示されます。

メール
アドレスと
パスワードを
入力



医療安全情報
2019年度 第2弾

医療安全推進のための取り組み

働き続けられる職場づくり推進委員会

近年、個人がホームページや**ブログ**、**SNS**などを通じて、インターネット上で情報発信をすることが一般的
に行われるようになりました。自分の考えや日常生活などを手軽に多くの人と共有できること、また多くの
サービスの場合、自分の投稿に対する読者からの反応をすぐに確認できることなどが、利用者にとっての
大きな魅力になっています。

その一方で、これらの情報発信に際して、さまざまなトラブルも起きてい
ます。職員は、個人として施設の名前を明らかにした上で**SNS**を利用する
場合と、**SNS**を業務で利用する際にそれぞれ留意すべき点があります。
個人として**SNS**を利用する場合には、個人の不用意な発言により、他の
利用者から集中的な非難などを浴びる現象が起きることがあります。その
影響は所属する施設にまで及び、ブランドイメージを損なうというリスク
もあるため、発言には十分に留意する必要があります。



総務省『国民のための情報セキュリティサイト』(http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/index.html)をもとに作成

クイズに答えると、抽選で7名様にクオカードが当たる!



浜松市北区意思決定支援プロジェクトで意思決定
支援の普及ツールとして作成されたのは何でしょうか?
答え:○○○○シート



応募方法

葉書又はメールに答えをお書きのうえ、下記にお送り下さい。正解者の中から、抽選で7名の方にクオカード(1,000円分)を
差し上げます。当選者は「Vol.3」に掲載させていただきます。(ペンネーム可)

右記内容をご記入のうえ、応募してください。

●答え ●氏名 ●所属 ●電話番号 ●〒 ●住所 ●看護しずおかの感想 ●看護協会へのご意見

お寄せいただいたご意見・ご感想は、看護しずおかに掲載させていただく場合があります。

締め切り

8月23日(金) 消印有効

葉書の場合の宛先

〒422-8067 静岡県駿河区南町14-25 静岡県看護協会 総務部 看護しずおかクイズ係
※はがきが62円に値上がっていますのでご応募の際はご注意ください。

メールの場合の宛先

メールアドレス
kango@shizuoka-na.jp

当選者

「Vol.1」のクイズの答え: 21,102名

野田 知美様・ペンネームひつさ様・浅井 瞳様
ペンネームクロ様・酒井 清美様・畠山 瑞恵様・下町 里奈様



公益社団法人 静岡県看護協会

〒422-8067 静岡県駿河区南町14-25 エスパティオ3階
TEL.054-202-1750/FAX.054-202-1751 編集責任者:渡邊昌子

令和元年7月25日発行